

横浜市中央卸売市場経営展望（素案）の市民意見募集の実施結果について

「横浜市中央卸売市場経営展望」（素案）について、以下の通り市民意見募集を実施し、多くの貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見の一部を反映し、「横浜市中央卸売市場経営展望（原案）」を策定します。

1 市民意見募集の実施概要

- 募集期間：令和2年7月10日から令和2年8月11日まで
- 意見収集方法：郵送、FAX、電子メール、場内事業者ヒアリング
- 周知方法：横浜市ホームページ、経済局中央卸売市場・各区役所・市民情報センターでの配架

2 市民意見募集の実施結果

(1) 意見提出状況

意見提出方法	提出者数
郵送	-
FAX	-
電子メール	1者
場内事業者ヒアリング	13者
計	14者

(2) 意見の取扱の状況

意見に対する考え方	意見数
反映	12件
参考	43件
賛同	7件
計	62件

※12件の御意見を反映し11か所を修正

3 市民意見募集の主な御意見と経営展望原案への反映内容

(1) AI、ビッグデータ等の活用

【意見の要旨】大量生産・大量流通・大量消費の時代は終わり、個性や差別化が重要なキーワードとなる。市場の持つビッグデータをAIで分析し、活かすべき。

【修正箇所】p.35【戦略1】集荷・販売力の強化

反映前	反映後
取引先別に加工時間や商品開発等を工夫する他、翌週の需要ニーズを的確に捉え、細かくかつ柔軟に対応することで収益構造強化を図る。	情報が集まる流通の結節点という卸売市場の強みを活かし、市場の持つビッグデータをAIで分析・活用し、取引先別に加工時間や商品開発等を工夫する他、翌週の需要ニーズを的確に捉え、細かくかつ柔軟に対応する等、収益構造強化を図る。

(2) 民間事業者との連携

【意見の要旨】 新たなサービス等、一からやるのではコストがかかるため、既存の仕組みに相乗りしてプラットフォームを立ち上げてもらうのがよい。

【修正箇所】 p. 41 【戦略4】 流通構造の効率化・高度化・システム化

反映前	反映後
商取引や市場業務について電子化・システム化・ペーパーレス化を促進することで、場内事業者及び開設者ともに事務作業負担や費用負担を削減する。	商取引や市場業務について、 <u>ノウハウを持つ民間企業との連携による通信販売の展開や、業務の電子化・システム化・ペーパーレス化が推進されるよう、外部連携によるプラットフォームの構築等を進め、場内事業者及び開設者の事務作業負担や費用負担を削減する。</u>

(3) 施設整備と機能強化

【意見の要旨】 施設・設備の機能の強化と施設使用の仕方の見直しの両方の整理を進める必要がある。

【修正箇所】 p. 43 【戦略5】 市場流通環境高度化に向けた設備投資

反映前	反映後
青果部関係者と協議を進め、夏場や荒天時における商品劣化を防ぐために必要となる屋内荷捌場や冷蔵保管庫等を整備する。	青果部関係者と協議を進め、夏場や荒天時における商品劣化を防ぐために必要となる屋内荷捌場や冷蔵保管庫等を整備する。 <u>また、施設整備と併行した効率的な市場施設利用（適正使用・物流動線等）ルールを策定する。</u>

(4) 市場のプロモーション

【意見の要旨】 地場の産品を市場ブランドとしてアピールすることは、他市場との差別化を図るとともに、産地の活性化にも寄与することに繋がる重要な取組である。

【修正箇所】 p. 45 【戦略6】 市場プロモーションと賑わい創出

反映前	反映後
本場を経由する商品の品質や魅力を高め、発信することにより、本場が取扱う生鮮食料品等のブランド力を向上させるとともに需要・消費を喚起するため、	本場を経由する商品の品質や魅力を高め、発信することにより <u>産地の活性化に寄与するとともに、本場が取扱う生鮮食料品等のブランド力を向上させて他市場との差別化を図り、</u> 需要・消費を喚起するため、

≪参考≫ 意見一覧及び意見に対する考え方

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
1	戦略6【本場】	現在は情報公開の対応が大変。これは個々の場内事業者がやるべきなのか。市民にとってどのような形が最適なのかは、市が音頭を取って検討していただきたい。場内関係者ではなく、外の人がどんな情報が欲しいのかをこちらで把握するのは難しい。	参考	いただいた意見は、今後経営展望の具体的な取組を推進していくうえで参考にさせていただきます。	1, AI、ビッグデータ
2	戦略4【本場】	AI、ITなどの情報化の進展は10年で相当進むことが想定されるので、本展望でもそれを抜きに語ることは、ポイントを欠いた感がある。高度情報化への対応やそれを組み込んだシステム構築なしの戦略は、時代の進展や技術の発展を無視した戦略ととらえかねない。すべての戦略実現のインフラとして「AIなどの活用を可能にする情報基盤の整備」を、どこかに書いてほしい。(p.33の図に)	反映	いただきました「AI、ビッグデータの活用」についての意見を、p.41【戦略4】流通構造の効率化・高度化・システム化に反映しました。 【反映箇所】 本場の中長期的かつ安定的な取引環境を構築するためには、人材確保や「働き方改革」、物流効率化等への対応を進めていくことが必要であることから、ICTの開発・活用動向も踏まえ、 <u>市場の持つビッグデータをAIで分析・活用するなど、新技術の導入・活用と業務の効率化・高度化や情報基盤の整備に関する検討を並行して推進していく。</u>	1, AI、ビッグデータ
3	戦略1【本場】 戦略4【本場】	多段階でなく、サプライチェーンとなる流通システムにおいて、卸売市場の必要性・意義を訴えるには、卸売市場の持つ「生産者」と「(小売を通じた)消費者」の結節点としての機能の重要性、とくに、情報力という視点で伝えることが必要だし、強みとなるといえる。AI、IT、ビッグデータという情報に関連した対策として、卸売市場の結節点としての強み、情報の蓄積・分析・活用にあることを訴えるべきである。	反映	いただきました「AI、ビッグデータの活用」についての意見を、p.35【戦略1】集荷・販売力の強化に反映しました。 【反映箇所】 <u>情報が集まる流通の結節点という卸売市場の強みを活かし、市場の持つビッグデータをAIで分析・活用し、取引先別に加工時間や商品開発等を工夫する</u> 他、 <u>翌週の需要ニーズを的確に捉え、細かくかつ柔軟に対応する等、情報を蓄積・分析・活用することで収益構造強化を図る。</u>	1, AI、ビッグデータ

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
4	戦略1【本場】 戦略4【本場】	<p>今後の卸売市場の生き残り、もしくは強みは、中小の生産者の個性を生かし、彼らの生き残りを支えることである。大量生産・大量流通・大量消費の時代はいずれ終わり、10年後には個性や差別化が重要なキーワードになる。その時代には、生産者も特色をもった生産物を訴えることが重要であり、そのカギを握るのが卸売市場といえる。</p> <p>(p.32のビジネスモデルの表記は現状のモデルであり、高度成長期後の時代には、「大量」というワードは過去の言葉といえる。) その手段となるのが情報でありAIである。ビッグデータを大量のデータととらえるのではなく、個別で微細なデータの集積としてとらえ、その集積地が微細なデータを大量に集め・分析して生かすことで、その活用能力によって卸売市場の存在意義を訴えることは可能である。現在は弱小であるかもしれない中小の生産者が、10年後には個性を持った生産物を生産できる生産者としての存在価値を發揮できるのも、卸売市場の新しい機能であり、価値と考える。サプライチェーンにおいて存在意義を高めるための、情報の基地となる。</p>	反映	<p>いただきました「AI、ビッグデータの活用」についての意見を、p.35【戦略1】集荷・販売力の強化に反映しました。</p> <p>【反映箇所】 <u>情報が集まる流通の結節点という卸売市場の強みを活かし、市場の持つビッグデータをAIで分析・活用し、取引先別に加工時間や商品開発等を工夫する</u>他、<u>翌週の需要ニーズを的確に捉え、細かくかつ柔軟に対応する等、情報を蓄積・分析・活用することで収益構造強化を図る。</u></p>	1,AI、ビッグデータ
5	戦略6【本場】	(未利用魚の独自給食) 未利用魚への理解を深めてもらうための学校給食での利用を行ってきたが、教育委員会との交渉など、さらなる推進には今後も市の協力が必要である。	賛同	いただいた意見も踏まえ、p.45【戦略6】市場プロモーションと賑わい創出における食育等の社会貢献活動の中で取組を進めてまいります。	2.民間事業者・関係者との連携
6	戦略1【本場】 戦略2【本場】	売買参加者をいかに増やすか。	賛同	いただいた意見も踏まえ、p.35【戦略1】集荷・販売力の強化およびp.37【戦略2】県内・市内関係者との関係強化を推進していく中で、取組を進めてまいります。	2.民間事業者・関係者との連携
7	戦略2【本場】	食品ロスの改善や販路拡大につながる新たなチャンネルがほしい。行政には、ネットワークを構築するための「商談会・交流会」を開催してもらいたい。	賛同	いただいた意見も踏まえ、p.37【戦略2】に記載のあります県内・市内関係者のための「地域商談会・交流会@横浜市場」等の取組を進めてまいります。	2.民間事業者・関係者との連携
8	戦略1【本場】 戦略2【本場】	企業誘致と連携することは、卸だけでなく仲卸・小売商の活性化になるメリットがあるので進めてほしい。	参考	p.35【戦略1】集荷・販売力の強化を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	2.民間事業者・関係者との連携

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
9	戦略1【本場】 戦略2【本場】	市場の特色として、県内・市内産のブランディング強化をしていく必要がある。市場だけで考えるのではなく、「行政⇄市場関係者⇄生産地」ニーズに対して関係者間の連携、推進体制を整備する必要がある。	賛同	いただいた意見も踏まえ、p.35【戦略1】集荷・販売力の強化およびp.37【戦略2】県内・市内関係者との関係強化を推進していく中で、取組を進めてまいります。	2.民間事業者・関係者との連携
10	戦略2【本場】	神奈川県は水産振興に力を入れており、県産のサワラやタチウオの売り込みに協力している。水産振興は県との連携が必要。	賛同	いただいた意見も踏まえ、p.37【戦略2】県内・市内関係者との関係強化を推進していく中で、取組を進めてまいります。	2.民間事業者・関係者との連携
11	戦略全般	一次産業から飲食店・小売りまでを大切にしてもらいたい。	参考	いただいた意見は、今後経営展望を推進していくうえで参考にさせていただきます。	2.民間事業者・関係者との連携
12	戦略4【本場】	(通信販売) 通信販売はやっている。一からやるのではコストがかかるので、やるなら既存の仕組みに相乗り。小売商組合もあるので、その辺をどう参画させるかが大事であり、そういうプラットフォームを立ち上げてもらうのはいいかもかもしれない。	反映	いただきました「民間事業者との連携」についての意見を、p.41【戦略4】流通構造の効率化・高度化・システム化に反映しました。 【反映箇所】 商取引や市場業務についてノウハウを持つ民間企業との連携による通信販売の展開を進めるほか、電子化・システム化・ペーパーレス化・プラットフォームの構築等を促進することで、場内事業者及び開設者ともに事務作業負担や費用負担を削減する。	2.民間事業者・関係者との連携
13	戦略2【本場】	(経営展望の推進体制) 売買参加者の意見を聞くことが重要だと思うが、買う時にしかないのが機会が少ない。	参考	いただいた意見については、p.37【戦略2】に記載のあります県内・市内関係者のための「地域商談会・交流会@横浜市場」等の取組を進めていく上で参考にさせていただきます。	2.民間事業者・関係者との連携
14	戦略6【本場】	ホテルに宿泊するお客さんが市場に足を運ぶツアーなど、連携して行う企画が挙げている。可能性があれば新しいことにチャレンジし、来場を増やしていくことを一緒に考えていきたい。	参考	p.45【戦略6】市場プロモーションと販わい創出を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	2.民間事業者・関係者との連携

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
15	戦略6【本場】	平塚公設市場関連組合と商店街組合が連携して、買い物弱者対策として送迎バスを走らせて買い物に来てもらう取組をしている。	参考	p.45【戦略6】市場プロモーションと販わい創出を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	2.民間事業者・関係者との連携
16	戦略6【本場】	川崎市北部市場では、水産仲卸会社がクックパッドマートと連携したEC事業を積極的に行っており、事業拡大にあたり冷蔵保管庫を増やすため、関連空き店舗を倉庫保管業として貸し出すことについて関連組合でも了承した。クックパッドは購入後のアフターフォローもきちんとしている。顧客数を増やすために新たな取組にチャレンジしていくべきと思う。	参考	p.45【戦略6】市場プロモーションと販わい創出を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	2.民間事業者・関係者との連携
17	戦略1【食肉】	卸売市場法が改正され、場内事業者は新たな取組を行いやすくなった。例えば場内事業者がより高度な加工を行い、新たなビジネスにつなげるなど、新たなサービス展開を積極的に支援すべき。	参考	p.55【戦略1】市場関係者と連携した取組の強化を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	2.民間事業者・関係者との連携
18	戦略1【食肉】	当市場として市場活性化を進め、競争力を高めていくために、意見交換をする場が必要。	参考	p.55【戦略1】市場関係者と連携した取組の強化を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	2.民間事業者・関係者との連携
19	戦略5【本場】	(施設面での課題) 雨風から商品を守ることが必要。産地からも量販店からも求められており、集荷・販売の強化に直結する。	賛同	いただいた意見も踏まえ、p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資を推進していく中で、取組を進めてまいります。	3.施設整備
20	戦略5【本場】	(施設面での課題) 低温倉庫(保冷库)の整備を早急に実現したいが、市から電力や建築確認申請の課題があるといわれている。状況は理解するが、量販店等は5、6年も待ってくれない。産地や消費者に対しても安全安心を届けたい。	参考	p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	3.施設整備
21	戦略5【本場】	(加工について) 品質管理も含めて加工は大切。商品のホールでの流通には限界があり、量販店のバックヤードでの1次加工をやめて、加工が求められている。さらに食品ロスも問題であるため、ポイルするなどして生鮮食料品のロングライフ化を図る必要がある。多額な設備投資のこともあるため、個別の卸や仲卸ではなく、共同加工がいいと考えている。	参考	p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資を推進していくうえで、加工に関する様々なニーズに対応することが求められています。検討の際には、いただいた意見を参考にさせていただきます。	3.施設整備

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
22	戦略5【本場】	場内の各エリアはきちんとしたプロセスがないまま現在の状況になっている。卸・仲卸の区分け・動線を整理したい。	反映	<p>いただきました「市場内の物流の効率化」についての意見を、p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資に反映しました。</p> <p>【反映箇所】 青果部関係者と協議を進め、夏場や荒天時における商品劣化を防ぐために必要となる屋内荷捌場や冷蔵保管庫等を整備する。<u>また、施設整備と併行した効率的な市場施設利用（適正使用・物流動等）ルールを策定する。</u></p>	3.施設整備
23	戦略5【本場】	（施設面の課題）閉鎖型やコールドチェーン化は量販店等からも求められており、集荷・販売の強化に直結する。横浜市場でやれることは機能強化してほしい。	参考	<p>p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資を推進していくうえで、取引先のニーズに応えられる施設整備が求められています。検討の際には、いただいた意見を参考にさせていただきます。</p>	3.施設整備
24	戦略5【本場】	場内は既得権があり、今の使い勝手になっているが、本来の使い方、エリア分けにしてそのうえで卸会社は集荷を強化し、市場使用料として還元する。	反映	<p>いただきました「市場内の物流の効率化」についての意見を、p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資に反映しました。</p> <p>【反映箇所】 青果部関係者と協議を進め、夏場や荒天時における商品劣化を防ぐために必要となる屋内荷捌場や冷蔵保管庫等を整備する。<u>また、施設整備と併行した効率的な市場施設利用（適正使用・物流動線等）ルールを策定する。</u></p>	3.施設整備

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
25	戦略5【本場】	設備機能強化と施設使用の仕方（既存施設利用見直し、有料化を含む使用料徴収）の整理をしっかりとやっていく必要がある。	反映	いただきました「市場内の物流の効率化」についての意見を、p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資に反映しました。 【反映箇所】 青果部関係者と協議を進め、夏場や荒天時における商品劣化を防ぐために必要となる屋内荷捌場や冷蔵保管庫等を整備する。 <u>また、施設整備と併行した効率的な市場施設利用（適正使用・物流動線等）ルールを策定する。</u>	3.施設整備
26	戦略5【本場】	加工場を整備するための融資制度を組合で設けているが、全く活用されていない。加工設備がない売場で作業されないようにしなければならない。	参考	p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	3.施設整備
27	戦略5【本場】	海水供給の需要があり、設備が欲しい。	参考	p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資を推進していくうえで、取引先のニーズに応えられる施設整備が求められています。検討の際には、いただいた意見を参考にさせていただきます。	3.施設整備
28	戦略5【本場】	現在の食品流通構造の変化に対応していくためには、物流動線効率化や低温管理などをはじめ、市場全体の施設のレイアウト・構造を根本から見直さなくてはならない。そのためには、莫大な投資が必要であり、それにふさわしい将来の市場のビジョンや、横浜市場のブランディングを進める必要がある。こうしたことは、行政職員では限界があり、政治が主導すべき。	参考	いただいた意見は、今後経営展望の具体的な戦略を推進していくうえで、参考にさせていただきます。	3.施設整備

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
29	戦略6【本場】	(地場魚の集荷力強化) 市場ブランドをアピールし他市場との差別化を図ることや、地場の漁港の活性化にも寄与するとともに集荷力の強化にもつながるため、重要な取り組みである。	反映	いただきました「市場のブランド化」についての意見を、p.45【戦略6】市場プロモーションと販わい創出に反映しました。 【反映箇所】 本場を経由する商品の品質や魅力を高め、発信することにより産地の活性化に寄与するとともに、本場が取扱う生鮮食料品等のブランド力を向上させて他市場との差別化を図り、需要・消費を喚起するため、	4.市場プロモーションと販わい創出
30	戦略6【本場】 戦略5【本場】	(市場プロモーション) 先行投資のつもりで一般市民に伝わるプロモーション事業を行ってきた。本場は関連棟の強化が必要だと思う。市場での販わいづくりとして人を呼び込む場合、やはり関連棟での食事となるが、現状では利用者が少ない。	参考	p.45【戦略6】市場プロモーションと販わい創出及びp.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと販わい創出
31	戦略6【本場】	三角地の利用については、市場に関連する販わい施設ができればという思いはある。	参考	p.45【戦略6】市場プロモーションと販わい創出を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと販わい創出
32	戦略2【本場】	現在は統一の考え方がないが、「横浜ブランド」(地元産)と「横浜市場ブランド」(市場を経由したもの)を確立していけないか。	参考	p.37【戦略2】県内・市内関係者との関係強化およびp.45【戦略6】市場プロモーションと販わい創出を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと販わい創出
33	戦略2【本場】	経営展望推進体制の活性化協議会で取り組むプロジェクトは、「県内・市内産のブランディング化」に特化する。これを軸に推進することで、関係者との連携強化につながり、認知度向上による集荷販売の強化、市場の活性化を創出できると思う。	賛同	p.37【戦略2】県内・市内関係者との関係強化を推進していく中で、取組を進めてまいります。	4.市場プロモーションと販わい創出
34	戦略6【本場】	過去に広報よこはまに取り上げてもらって、効果があった。区版ではなく、市版で掲載してもらいたい。本場がみなとみらいの近くにあることを知ってもらいたい。	参考	p.45【戦略6】市場プロモーションと販わい創出を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと販わい創出

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
35	戦略5【本場】	関連棟の飲食店が重要。もっと市場の人も利用する状態にしていくべき。	参考	p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資を推進していくうえで、関連棟施設の整備等検討の際にいただいた意見を参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと賑わい創出
36	戦略6【本場】	市はPRに尽力してほしい。	参考	いただいた意見は、今後経営展望の具体的取組を推進していくうえで参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと賑わい創出
37	戦略6【本場】	現在の市場においては、お客様の取込戦略が弱くなっていると思う。TVに出れば一時的にお客は増えるが、1か月もすればまた元に戻ってしまうので、何か手を打たなくてはならない。規制緩和や情報公開もどんどんやっていくべき。	参考	いただいた意見は、今後経営展望の具体的取組を推進していくうえで参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと賑わい創出
38	戦略6【本場】	(情報発信) インターネットは大事だが、「何を」「誰に」が絞れていない。時季のものをPRできると良い。	参考	p.45【戦略6】市場プロモーションと賑わい創出を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと賑わい創出
39	戦略全般	「食生活」「食文化」という言葉(p.33)、とくに「食文化」という言葉は、フード業界ではすでに40年ほど前から使われており、使い古された感がある。また、食生活・食文化では、抽象的でイメージが浮かびにくい。横浜らしく“美”食文化という表現が望ましい。	参考	いただいた意見は、今後経営展望の実施を推進していくうえで参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと賑わい創出
40	戦略全般	横浜は、先進的かつスタイリッシュな地域イメージがある。食生活・食文化においても海外の文化を取り入れるなど、他地域とは一味も二味も異なる素晴らしいイメージを持つ。したがって、抽象的な食文化という表現よりも、“美”食文化、という表現のほうが適当であり、望ましい。 他の地域では使うことを躊躇しても、横浜ならば使えるし、ふさわしい。10年後は、単なる食生活・食文化を支えるのではなく、「美”食生活・“美”食文化を支える食品流通拠点」になるべきであり、横浜こそが発信するメッセージだと考える。	参考	いただいた意見は、今後経営展望の具体的な取組を推進していくうえで参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと賑わい創出

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
41	戦略1【食肉】 戦略4【食肉】	魅力ある市場にするためには、品揃えを特色あるものにしていかなければならない。例えば肥育方法などに特徴のある牛・豚を集荷する、市内・県内の出荷者と関係性を強めて地産地消を特徴にしていく、など工夫が必要ではないか。	参考	p.55【戦略1】市場関係者と連携した取組の強化及びp.61【戦略4】食肉の消費拡大に向けた積極的なプロモーションを推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと賑わい創出
42	戦略4【食肉】	横浜食肉市場PR館で、市民がいつでも良質な食肉を購入できたり、賑わいづくりをするなど、積極的に活用すべき。	参考	p.61【戦略4】食肉の消費拡大に向けた積極的なプロモーションを推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	4.市場プロモーションと賑わい創出
43	戦略4【本場】	(共同配送の仕組み構築) 仲卸組合で以前試行したが、荷が集まらずうまくいかなかった。豊洲市場で実施しているが、コスト的にうまくいっているのかはわからない。どうすればうまくいくか考えていく必要がある。	参考	p.41【戦略4】流通構造の効率化・高度化・システム化を推進していくうえで、共同配送に関する検討の際にいただいた意見を参考にさせていただきます。	5.物流の効率化
44	戦略5【本場】	喫緊の課題は、物流動線の悪さ。経営展望の推進で10年先といわず、再編整備に合わせて5年後の整理、解決を目指してほしい。10年後の物流構造の変化を見据えICT活用の研究などを経営展望で検討してほしい。	参考	p.43【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資およびp.41【戦略4】流通構造の効率化・高度化・システム化を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	5.物流の効率化
45	戦略4【本場】	開設者が中小運輸業を束ねて、少額、少量で共同配送を実施してほしい。	参考	p.41【戦略4】流通構造の効率化・高度化・システム化を推進していくうえで、共同配送に関する検討の際に、いただいた意見を参考にさせていただきます。	5.物流の効率化
46	戦略1【本場】	量販店のバイヤーには本場の集荷力を不安視されている。	参考	p.35【戦略1】集荷・販売力の強化を推進していくうえで、取引先のニーズを的確にとらえることが必要となります。検討の際にはいただいた意見を参考にさせていただきます。	5.物流の効率化
47	戦略4【本場】	(通販) 青果は水産とは違い、仲卸は箱単位で販売する。1個、2個に分けて売ろうとする仲卸は少ないかもしれない。	参考	p.41【戦略4】流通構造の効率化・高度化・システム化を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	5.物流の効率化

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
48	戦略4【本場】	10年後は、大量集荷・出荷の時代ではない(p.32)。大量は、高度経済成長期の考え方であり、現在でもすでに「大量」という発想は古い。成熟した社会は、多品種・多様性(個別対応)への対応の時代になる。	参考	p.41【戦略4】流通構造の効率化・高度化・システム化を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	5.物流の効率化
49	戦略3【本場】	品質管理については、場内に衛生検査所があることを活かし、衛生検査所と連携して進めるべき。	反映	いただいた意見は、今後経営展望の具体的な戦略を推進していくうえで参考にさせていただきます。また、いただきました「品質管理」についての意見を、p.39【戦略3】品質管理水準高度化に反映しました。 【反映箇所】 市場全体の品質管理を強化するため、開設者・食品衛生検査所・業界が協力し、既存組織等も活用しながら品質管理体制を再編し、ルール策定、相互監視等の強化を推進する。	6.品質管理
50	戦略2【食肉】 戦略3【食肉】	豚熱やASFなど、家畜の感染症の脅威が増している。衛生面での強化を計画的に推進すべき。	参考	p.57【戦略2】高品質で安全・安心な食肉を供給及びp.59【戦略3】食品流通の基幹的インフラとしての機能強化を推進していくうえで、いただいた意見を参考にさせていただきます。	6.品質管理
51	戦略全般	SDG'sへの対応は現在より厳しくなるし、必須となる。動向としてせつかく書かれている(p.27)のに、対応についての考え方や具体策が書かれていない。	反映	各戦略のページに関連するSDG'sの項目を掲載しました。いただいた意見は今後の取組の参考とさせていただきます。	7.SDG's
52	戦略全般	SDG'sの17項目すべてに対応する必要はないが、展望では意識していることを示すことが重要である。例えば、「3.すべての人に健康と福祉を」「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」「12.つくる責任つかう責任」「14.海の豊かさを守ろう」「15.陸の豊かさを守ろう」「17.パートナーシップで目標を達成しよう」は、卸売市場でも実現可能な目標になるといえる。詳細でなくとも、以上の項目について実現の目標を記すことで、卸売市場の世界観やゴールを意識しているというメッセージを伝えることはできる。	反映	いただきました「SDG's」についての意見をp.66の図表4-2に反映しました。また、各戦略のページに関連するSDG'sの項目を掲載しました。	7.SDG's

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
53	戦略全般	7つの戦略はそれぞれ対等な重みではなく、順番があると思う。	参考	いただいた意見は、今後経営展望を推進していくうえで参考にさせていただきます。	8.その他
54	戦略全般	我々が手を付けられない戦略3、4、5は、直接利益を生まないとは思いますが、ぜひ市でやってほしい。市場PRは、昔に比べたらすごくよくやっもらっていると思う。	参考	いただいた意見は、今後経営展望を推進していくうえで参考にさせていただきます。	8.その他
55	戦略全般	10年後を想定しての展望であるとしたら、今回の報告書は、現状の延長線上で構想されている。現在から10年後を構想するのではなく、10年後から現在を考える、という視点が欲しい。10年後は、卸売市場の位置づけ・機能など、現在とは全く違っているはず。それは、AIの高度化などの高度情報化が卸売市場にも大きく関係してくる。	参考	今後、消費行動の変化、多様な流通・販売網との競争の激化、卸売市場法の改正、TPPの締結等により、市場を取り巻く環境や市場の果たす役割が大きく変化していくと考えております。いただいた意見は、今後経営展望の具体的な戦略を推進していくうえで、参考にさせていただきます。	8.その他
56	戦略全般	卸売機能の変貌する可能性も大いにありうる。機能が失われないために、また新しい時代に価値を創造するには、どう変貌すべきかについて論究してほしかった。(p.31の最終5行目は重要なことが指摘されているにもかかわらず、これに対する対応がその後、ほとんど書かれていない。)	参考	今後、消費行動の変化、多様な流通・販売網との競争の激化、卸売市場法の改正、TPPの締結等により、市場を取り巻く環境や市場の果たす役割が大きく変化していくと考えております。いただいた意見は、今後経営展望の具体的な戦略を推進していくうえで、参考にさせていただきます。	8.その他
57	戦略全般	p.32に、卸売市場2030(10年後の姿)とあるが、切り口としては、現在考えられる項目別になっている。今、読めば違和感はないが、10年後は全く違った切り口で考え行動する時代になっていると考えたほうがよい。	参考	今後、消費行動の変化、多様な流通・販売網との競争の激化、卸売市場法の改正、TPPの締結等により、市場を取り巻く環境や市場の果たす役割が大きく変化していくと考えております。いただいた意見は、今後経営展望の具体的な戦略を推進していくうえで、参考にさせていただきます。	8.その他
58	戦略全般	文脈がうまくつながっていない。項目ごとはしっかり描かれているが、前の文章や課題と後ろの文章の関連性が薄い。〇〇だから、□□とすべき、といった流れがあまりみられない。	参考	いただいた意見は、今後経営展望の実施を推進していくうえで参考にさせていただきます。	8.その他

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
59	戦略全般	流通システムが、現状のまま変化しないという考え方で書かれているが、サプライチェーンとして考える必要がある。生産 ⇒ 卸 ⇒ 小売 ⇒ 消費、という流通システム、多段階性は遠くない将来、サプライチェーンとして一本化の可能性を想定しておく必要がある。その中での卸売市場の存在意義・価値について言及することが必要なのではないか。	参考	今後、消費行動の変化、多様な流通・販売網との競争の激化、卸売市場法の改正、TPPの締結等により、市場を取り巻く環境や市場の果たす役割が大きく変化していくと考えております。いただいた意見は、今後経営展望の具体的な戦略を推進していくうえで、参考にさせていただきます。	8.その他
60	戦略全般	あらゆる項目で両者が別の扱いになっているが、卸売市場の将来展望を別々に考えるのに違和感がある。卸売市場という大きなくくりで統一し、上位概念の戦略は同じ言葉でまとめ、戦術で違いを出すのがよいのではないか。 p.33 と p.53 では、フォーマットや書き方が全く異なり、同じ「横浜市中央卸売市場あり提言書」（平成20年）を出発点としながら、フォーマットも書き方も異なるために、内容も戦略も異なる。食肉市場には本場で書かれている未来像が見えない。（ただし、二つのものを一つにまとめるには大幅修正となるので、一つの意見として申し上げる。） 本場では展望として「横浜地域の「食」生活・「食」文化を第一に支える食品流通拠点へ」と書かれているが、食肉市場にはそうした目標が書かれていないし、触れられてもいない。両方に共通する目標として掲げるのが適当と考える。ただし、「食」生活・「食」文化でなく、「美」食生活・「美」食文化、と表記したほうが、横浜というブランドイメージや高質な食文化を表現するのに適している。	反映	食文化に関する意見につきましては、今後経営展望の具体的な戦略を推進していくうえで参考にさせていただきます。 また、いただきました「本場と食肉市場の共通する目標」についての意見を反映し、食肉市場経営展望（p.52、p.53、p.63）に、横浜市中央卸売市場全体の目標である「横浜地域の「食」生活・「食」文化を第一に支える食品流通拠点へ」という目標を追記しました。	8.その他
61	戦略全般	展望の「・・・第一に支える・・・」という表現の「第一に」は削除したほうがよい。「支える」で十分に伝わるし、第一に支えるのは相当、力を持つ必要があり、責務が重すぎる。	参考	経営展望策定の議論の中で、今後の本場の方向性として「横浜地域の「食」生活・「食」文化を第一に支える食品流通拠点」を掲げることとしたものであり、ご理解いただきたいと思えます。	8.その他

No.	戦略	意見	対応	意見に対する横浜市の考え方	キーワード
62	戦略4【本場】 戦略5【本場】	10年後、横浜中央卸売市場を取り巻く環境の変化、流通構造・システムの変化、消費者の変化、といった社会経済の構造についてのデッサンが描かれていないように感じた。未来を展望するのであるから、こんな時代になる、という想定図があってほしかった。それによって、卸売市場が変貌しなければならない、ということが見えてくるので。	参考	今後、消費行動の変化、多様な流通・販売網との競争の激化、卸売市場法の改正、TPPの締結等により、市場を取り巻く環境や市場の果たす役割が大きく変化していくと考えております。いただいた意見は、今後経営展望の具体的な戦略を推進していくうえで、参考にさせていただきます。	8.その他